

ゴルフ

こんにちは！豊橋市国際交流員のスティーブン・キャネルです。今日は人気スポーツのゴルフを紹介したいと思います。

ゴルフは約 600 年前スコットランドで発祥したとされています。今もプロの大会で使われているセント・アンドリュースのオールド・コースが最初にできた正式ゴルフ場とされています。オリンピック競技としては 1900 年、1904 年のオリンピックで正式種目となっていましたが、その後、112 年間オリンピック種目ではなく、2016 年リオオリンピックで復活しました。東京 2020 大会でも行われ、2024 年パリオリンピックでも正式種目となっています。



ゴルフはボールをクラブで打ち、目的のカップに入れるまでの打数を競う競技です。一般のゴルフ場は 18 ホールで、ホールそれぞれに長さや難度により「パー」という基準打数が指定されています。一般ゴルフ場はパー3、パー4、パー5 で出来ています。つまり望ましいプレーは 3 打、4 打、5 打でボールをカップに入れること

です。最終スコアは打数で数えるので低いほど良いです。クラブは最大 14 本を持つことができ、基本的に最も精度が低く飛ばす距離が長い「ドライバー」から、最も精度が良くボールを転がすことしかできない「パター」までのクラブを使います。

第 1 打は「ティーイングエリア」から打ちます。ティーイングエリアという指定区域ではボールを自由に芝生、またはボールを持ち上げる「ティー」に置くことができます。ティーイングエリア以外は、ボールが止まった場所からそのまま打たないといけません。ティーイングエリアから芝が短く刈られている「フェアウエー」という区域内にボールを置くのが目的です。フェアウエーの周りは「ラフ」という芝がより長い区域で、こちらはボールがより打ちにくいです。ラフ以外、砂が入っているくぼみの「バンカー」や池もあり、これらの障害区域を「ハザード」と言います。フェアウエー、またはラフやバンカーか

ら、次の目的は「グリーン」に乗せることです。グリーンとは最も芝が短いカップが設置されている区域のことです。グリーンにボールを置き、カップに入れると、そのホールが終わり、次のホールのティーイングエリアへ進みます。パー3の場合は、ティーイングエリアからボールを一打でグリーンに乗せるのが基本です。

ゴルフはペナルティーがたくさんあります。障害区域の「ハザード」に入り、ボールが打てない状態（例えば池に入った場合）になると、1打のペナルティーを受け、新しいボールで次のショットを打ちます。例えばティーイングエリアより第1打が池に入ると、1打のペナルティーを受け、池の前から新しいボールで第3打を打たなくてはなりません。ハザードの種類やどちらから入ったかにより打つ場所が異なります。「アウトオブバウンズ」(OB)と指定された区域に入った場合は、ボールを見つけて打てそうになっていても、打ってはいけません。OBはハザードと異なり、入った場所からボールを打つことが出来ず、打った場所よりペナルティーを1打受けた上で打ちなおさないといけません。つまり第1打がOB区域に入ると、同じ場所から第3打を打つことになります。(ボールを紛失し、ハザードなどに入ったことを確認できない場合にも「ロストボール」となりOBと同じ扱いとなります。)

ペナルティーは上述したもの以外にもたくさんありますが、近年はプレーのペースを速くし、初心者に優しくするために、ルールが大きく単純化されてきました。例えば2019年までは、グリーン上でボールを打ち、カップの位置を指す「ピン」に当たると2打のペナルティーとなりましたが、ペースを速くし、初心者にわかりやすくするために、このペナルティーがなくなりピンを外す必要がなくなりました。

毎年4月に男子ゴルフのメジャー大会の一つである「マスターズ」が行われます。今年のマスターズでは日本の松山英樹が勝ち、初日本人のメジャー大会優勝者となりました。今年の大会はアメリカのスコッティ・シェフラーが勝ち、270万ドル(約3億円)の賞金を手に入れました。次のメジャー大会は5月19日に始まるPGAチャンピオンシップ(全米プロゴルフ選手権)です。